
令和2年度 富良野農業の概要



富良野市経済部農林課

目 次

1 富良野の沿革

- 1 富良野のはじまり -2-
- 2 富良野農業のおいたち

2 富良野の市勢

- 1 位置・面積 -3-
- 2 交通
- 3 地勢・土壌
- 4 人口
- 5 生活環境 -4-
- 6 気象 -5-

3 富良野農業の現況

- 1 富良野農業の情勢 -6-
 - 営農
 - 政策・事業
 - トピック
- 2 富良野農業の構造
 - 作付面積
 - 農家戸数等
- 3 農業経済 -7-
 - 農業産出額
- 4 主要農作物作付面積の推移 -8-
 - 主要農作物作付面積の推移

4 農畜産物の生産状況

- 1 水稲 -9-
- 2 畑作
 - 小麦・大麦
- 3 野菜 -10-
 - 玉ねぎ
 - にんじん
 - メロン
 - スイカ
 - ぶどう
 - スイートコーン
 - ミニトマト

- かぼちゃ
- 長ねぎ・アスパラガス

4 畜産 -12-

- 肉用牛
- 養豚
- 酪農
- 飼料作物

5 富良野市の主な農業振興施策

- 1 富良野市市民農園 -14-
- 2 農業体験者滞在施設
- 3 農業担い手育成センター
- 4 北海道大学富良野サテライト
- 5 農業セミナー

6 農業農村整備事業

- 1 道営事業実施一覧表 -17-
- 2 国営事業実施一覧表

7 地域資源を活かした取り組み

- 1 農産物直売・農業体験・加工体験 -18-

8 富良野市農業関連施設

- 1 富良野市ぶどう果樹研究所 -19-
 - (1)ワイン工場
 - (2)ぶどう果汁工場
 - (3)富良野市種苗センター
- 2 ワインハウス
- 3 チーズ工房・アイスマルク工房・ピッツァ工房
手づくり体験工房
- 4 ハイランドふらの
- 5 山部自然公園「太陽の里」

1 富良野の沿革

1. 富良野のはじまり

富良野市の黎明は、安政4年（1857）、当時の箱館奉行の命を受けた石狩役所の足輕松田市太郎が、石狩川の上流域を調査するため、十勝岳に登り西方に富良野盆地を発見したのに始まります。

翌年、蝦夷地探検で有名な松浦武四郎は、十勝越えのため原始ヶ原（富良野岳中腹）を通過し、眼下に見る富良野原野を眺望して「東西凡そ十二三里、南北五六里の間、目に遮る物ない原野なり、一封内をなし地味山に囲まれる故に、暖にして、内地に比すれば相応の一ヶ国と思われる」と『十勝日誌』に発見の感慨を述べています。

明治2年（1869）に札幌に開拓使が置かれ、蝦夷地は「北海道」と改まり本格的な開拓が始まり、明治19年（1886）には道庁の拓殖計画に基づいて富良野原野も殖民地選定のための調査が行われ、上川地方のトップを切って選定されたものの、陸の孤島であったために、この後10年間開拓は遅れました。

明治29年（1896）、殖民地地区画が設定されると、地味肥沃な富良野原野は開拓使の注目するところとなり、翌年、本市の開拓の祖中村千幹氏がコウ夫人、小作3人を伴い、扇山に入植したのが開拓のはじまりとなっています。

明治36年（1903）下富良野村戸長役場の設置から、平成15年で100年、平成25年で110年を迎えました。

参考資料：『富良野市勢要覧』『富良野市歴史写真集』



富良野開基の人：中村千幹

2. 富良野農業のおいたち

開拓使は、ケプロンやクラークなど外国人農業技術者の進言で、寒冷な気候の北海道には稲作は不適當であるとし、畑作や酪農を奨励しました。しかし、入植者は稲作への執着を捨てきれず、明治32年（1899）、扇山の操上貞次氏が自宅裏の湿地に「石狩赤毛」の種苗を試作し、およそ6斗の玄米の収穫に成功したのが、富良野地方の稲作のはじまりとされています。

この成功に自信を深めた貞次は、布礼別川から用水を引いて本格的な作付けを行いました。富良野は盆地で、夏季は短期間であるが高温となり、これが稲の生育に好影響をもたらし、富良野地方の稲作に一層拍車をかけたのでした。

この米への執着は、主食だけに起因していたわけではなく、縄・俵・かますなどのワラ製品が営農に欠かせない必需品であり、また、豆や麦などの雑穀は価格が不安定であったためでした。

大正に入ると、稲作は、品種改良や栽培技術の進歩により急速に発展しました。特に第1次世界大戦後の恐慌による雑穀の大暴落が、安定的な水田経営に拍車をかけ、大正の末期には、林業や畑作に代わって稲作が基幹産業となっていきました。

昭和に入り、昭和25年（1950）には、北海道大学第八農場と東京大学演習林の農地開放が行われ、また、昭和40年代からは、土地基盤整備と大型農業用機械導入やライスセンターの建設により、機械化一貫体系による省力化栽培が確立されました。

しかし、食管制度のもと安定した需給を保っていた米市場が昭和42年頃から余りだし、昭和45年（1970）、国は全国一律一割の米の生産調整に踏み切り、減反政策を打ち出しました。その後、昭和50年（1975）に終わるはずであった米の生産調整対策は現在も続いています。その後、転作を契機に野菜・果菜の導入に努めた富良野農業は、現在、玉ねぎ・スイカ・メロンの一大産地として成長しています。

参考資料：『富良野市勢要覧』

2 富良野の市勢

1. 位置・面積

富良野市は、北海道のほぼ中央に位置している富良野盆地の中心で、東西 32.8km、南北 27.3km の長方形の姿をし、面積は 600.71k m²で、北海道内 35 市のうち 13 番目の広さを誇り、「へそのまち」「スキーのまち」「ワインのまち」ドラマ「北の国から」の舞台となっている“まち”として全国の人に知られています。

東方には北海道の屋根といわれる大雪山系十勝岳連峰、西方には夕張山系芦別岳、南方には東大演習林が広がり、その中央部を石狩川支流空知川が南北に貫流しています。その大地を網の目のように巡らす大小の河川や森林が、豊かな緑と清涼な大気を育み、美しい四季と雄大な自然を創り出しています。

経緯度

区分	最東端	最西端	最南端	最北端
東経	142° 40'	142° 16'	142° 21'	142° 40'
北緯	43° 17'	43° 18'	43° 09'	43° 24'

面積

総面積	東西	南北
600.71k m ²	32.8km	27.3km



資料：市例規類集

2. 交通

交通網は JR 根室本線では札幌市や帯広市と、JR 富良野線では旭川市と結ばれ札幌までおよそ 2 時間、旭川まで約 1 時間となっています。

国道は、38 号線と 237 号線により道央と道東を結び、交通の中核地点となっています。また、旭川空港まで自動車ですら約 50 分という環境にあり、空の利便性も確保されています。

3. 地勢・土壌

地勢は、海拔 200m 前後の南北に延びた盆地で、夕張山系芦別岳と大雪山系十勝岳連峰の二つの山脈に囲まれています。東方には、十勝岳の裾野が広大な森林地帯を形成しており、中央部には空知川が貫流しています。高台地の土壌は酸性褐色森林土が分布し、低地の土壌は低地土（褐色低地土、灰色低地土）と泥炭地が占めています。

4. 人口

富良野市の人口は 21,230 人（令和 2 年 3 月末）で、ピーク時の昭和 30 年代後半の 37,000 人台から約 43% 減少していますが、昭和 50 年代以降は微減で推移しています。

世帯数	人口総数	男	女
10,723 世帯	21,230 人	9,983 人	11,247 人

5. 生活環境

富良野の恵まれた自然環境と市民の快適な生活環境を乱開発から守るため、平成2年（1990）に「富良野らしさの自然環境を守る条例」を制定し、事業者と市民・市が話し合いの場をもつことによって、地域と共存する富良野らしい事業の実現を図っています。

環境衛生面では、快適な生活環境や恵まれた自然を守るために、市民の理解と協力を得てゴミのリサイクルに取り組んでいます。昭和63年（1988）からクリーンふらの計画により、『分ければ資源 混ぜればゴミ』を合い言葉にゴミの6分別収集に取り組み、市では、「燃やさない」「埋めない」を基本に、平成12年6月からペットボトル分別を、平成13年1月からはプラスチック分別、そして同年10月より14種類分別を開始し、リサイクル率99%達成を目標に市民とともに取り組んでいます。また、平成13年には、市、市民等、事業者などが一体となって、美しく快適な生活環境の保全及び良好な都市環境の形成を目的とした「富良野市まちをきれいにする条例」を制定しました。この富良野市のリサイクルの取り組みは、平成15年に「ふるさとづくり賞」総理大臣表彰を受けています。

清潔で衛生的な市民生活と水質汚染を防止する公共下水道は、昭和54年（1979）から整備が進められ、平成2年より供用開始されており、現在も計画的に整備が進められています。

そのほか、市民が健康で充実した生活をおくれるよう、医療体制の整備をはじめ、保健センターを中心として、各種検診の充実や保健師による成人病の予防指導、健康づくりの活動が進められています。

また、富良野沿線の看護師不足解消のため、平成6年（1994）に富良野看護専門学校を設立し、質の高いケアの必要性に対応する人材の育成を図っています。さらに、平成9年（1997）には、高齢化社会に対応した地域福祉の拠点として、地域福祉センターを開設しています。平成19年（2007）5月には、地域センター病院も移転開院され、圏域の中核医療機関として地域医療及び救急医療体制が充実されました。

文化振興面では、市民が積極的に文化づくりに参加する「市民参加型のまちづくり」を推進し、新たな形態の芸術活動を推進・発信する拠点として、平成12年（2000）に富良野演劇工場を開設しています。

中心市街地では、市民の健康づくり、生涯スポーツの振興、地域活動の交流の拠点となる中心市街地活性化センター「ふらっと」が、平成19年（2007）5月にオープンしました。

また、地域センター病院の跡地に「フラノ・マルシェ」が平成22年（2010）4月にオープンし、平成27年6月には「フラノ・マルシェ2」がオープンしました。富良野らしいにぎわい滞留拠点を創出し、富良野の食材や加工食品を活かした「食文化の発信基地」、イベント広場での「ファーマーズ・マーケット」や「フリー・マーケット」など交流拠点としてにぎわいの創出に期待されています。

平成30年6月1日には「インバウンド」「簡易宿泊」「着地型観光」をキーワードとする、富良野の「新たな情報発信とおもてなしの戦略的拠点」としてコンシェルジュ・フラノがオープンしました。



コンシェルジュ・フラノ

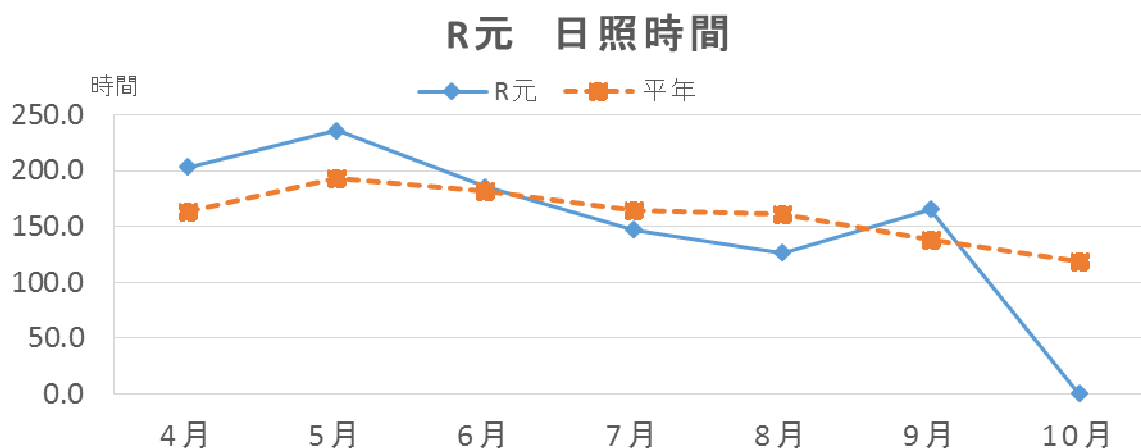
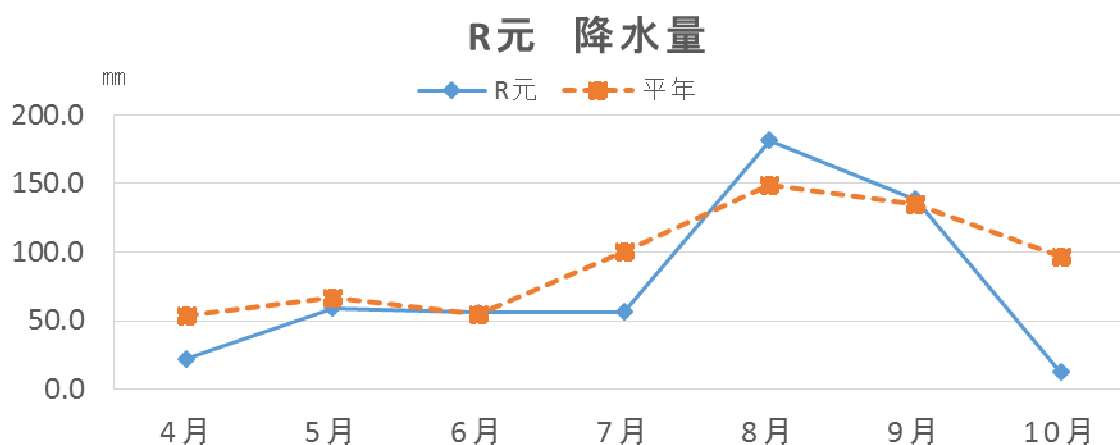
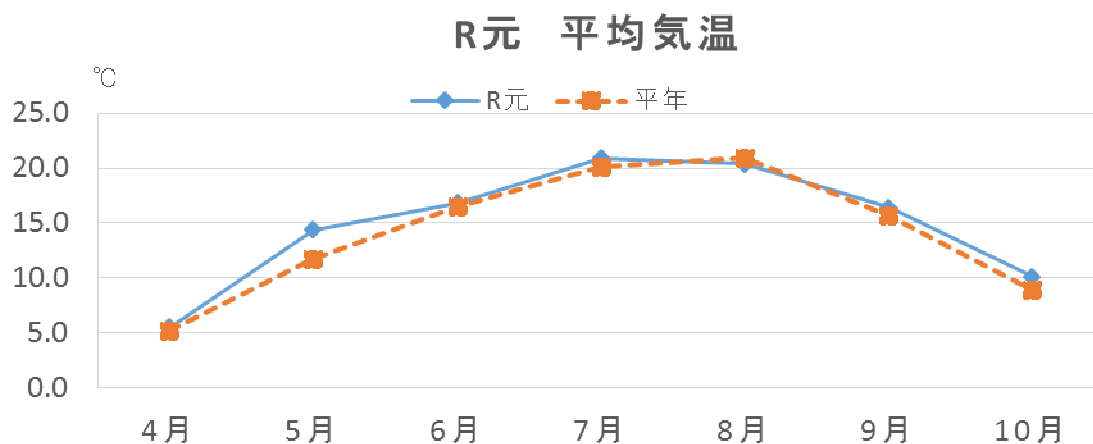


フラノマルシェ2

6. 気象

北海道の中央に位置する富良野盆地は、昼と夜、夏と冬の気温の差が大きく、夏は高温多湿で冬は多雪地帯です。近年の最高気温は 35℃前後、最低気温は-25℃前後で、年平均気温は 6℃前後となっています。降雪期間は 11 月上旬から 4 月上旬までで、積雪は平坦地で通常 1m 前後、山間部では 2～3m に達します。

令和元年においては、気温は 5 月に 30℃を超えることもありましたが、概ね平年並みでした。日照（年間 1428.5 時間）は平年よりやや少なめ、降水量は一年を通して降水量の減が見られ、年間降水量においては 733.5mm と平年を 200mm 以上下回っており干ばつ傾向となりました。



3 富良野農業の現況

1. 富良野農業の情勢

【令和元年の営農】

5月に30℃を超える高温や数日間雨が降らない状況もありましたが、播種作業や定植作業が順調に進みました。収穫については、一部平年並みの作物もありましたが全体として豊作基調の実りのある年となりました。

【政策・事業】

富良野市は平成31年3月に「第3次富良野市農業及び農村基本計画」を策定しました。これは、農業及び農村に関する施策を総合的、かつ計画的に推進するために、基本条例の条項に沿って中期的な施策の目標や内容をあきらかにしたもので、これに則り農業振興を進めていきます。

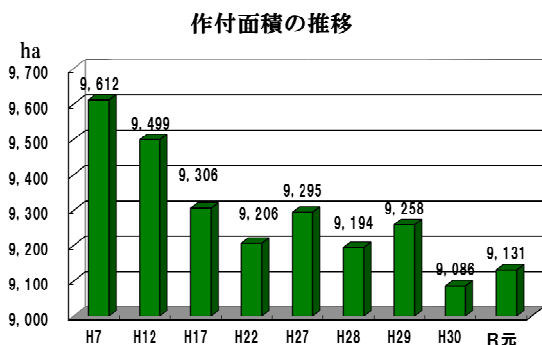
【トピック】

日付	内容
令和元年5月1日	天皇陛下譲位による即位、「令和」に改元
9月20日	ラグビーW杯 日本で開催し初の8強入り
10月1日	消費税10%に引き上げ
11月13日～12月4日	ふらの未来農業エキスポ 4回目開催
令和2年1月1日	日米貿易協定 発効
令和2年1月28日	新型コロナウイルス 北海道で初症例

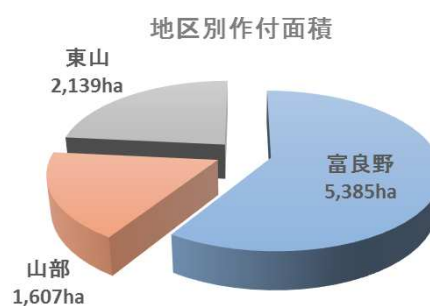
2. 富良野農業の構造

【作付面積】

令和元年度の富良野市の作付耕地面積は9,131haで、地区別では富良野5,385ha、山部1,607ha、東山2,139haとなっています。



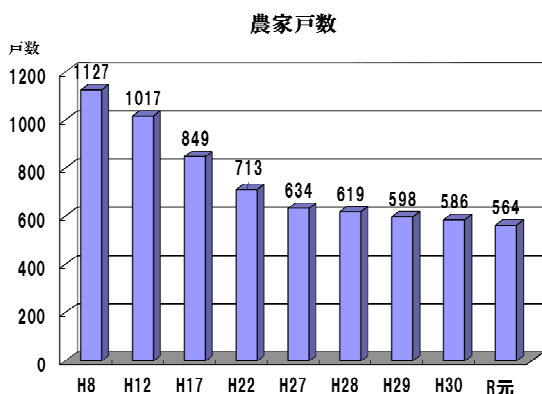
資料：JA



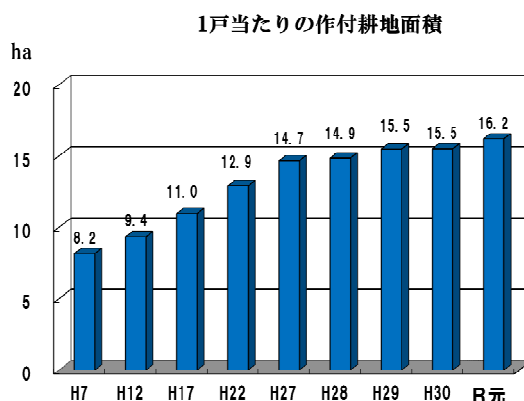
資料：JA

【農家戸数等】

富良野市の農家戸数は減少傾向にあり、令和元年は564戸となっています。また、一戸あたり作付耕地面積は集約が進み、増加傾向であり令和元年は16.2haとなっています。



資料：農業委員会 農地台帳登載事項確認届出書



資料：農業委員会、JA ふらの作付実態調査

3. 農業経済

【農業産出額】

平成30年度の農業産出額（農林水産省資料）は、約178.3億円となっています。

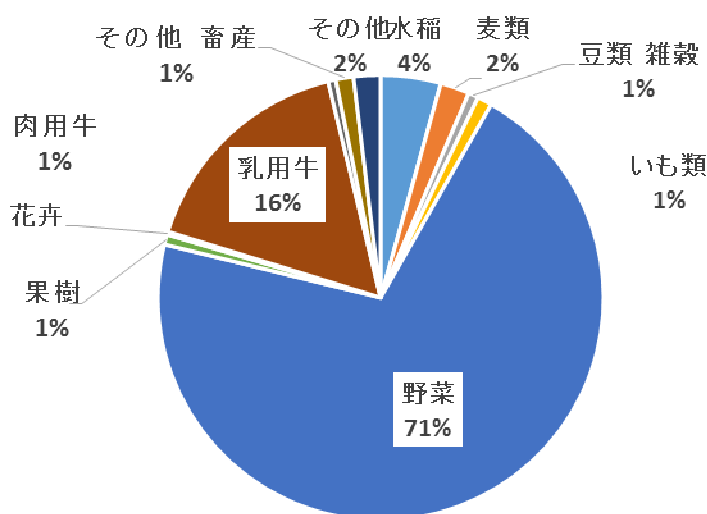
その内訳は、玉ねぎ、にんじん、スイカ、メロン、馬鈴しょを中心とした野菜が71%を占めており、乳用牛16%、水稲4%、麦類2%となっています。

また、参考資料として農協の販売高を下に掲載しています。加工を含んだ農協のみの販売高であるため、農業産出額と金額が異なります。

農業産出額

(単位:百万円)

年度	計	水稲	麦類	豆類 雑穀	いも類	野菜	果樹	花卉	乳用牛	肉用牛	その他 畜産	その他
H28産	17,350	720	420	80	290	12,190	140	40	2,750	100	230	390
H29産	16,680	780	400	160	240	11,240	140	40	2,880	100	240	470
H30産	17,830	780	380	130	190	12,650	130	40	2,940	100	230	350



資料：農林水産省

平成30年度 農業産出額の割合

<参考資料>

農協販売高												(単位:百万円)	
年度	計	水稲	麦類	豆類 雑穀	いも類	野菜	果樹	花卉	乳用牛	肉用牛	その他 畜産	その他	
H29	17,769	385	477	453	179	9,383	59	30	2,496	192	10	4,103	
H30	17,697	390	439	410	157	9,119	44	29	2,594	198	4	4,315	
R元	17,540	355	634	491	171	8,686	60	28	2,665	214	1	4,235	

4. 主要農作物作付面積の推移

【主要農作物作付面積の推移】

(単位：ha)

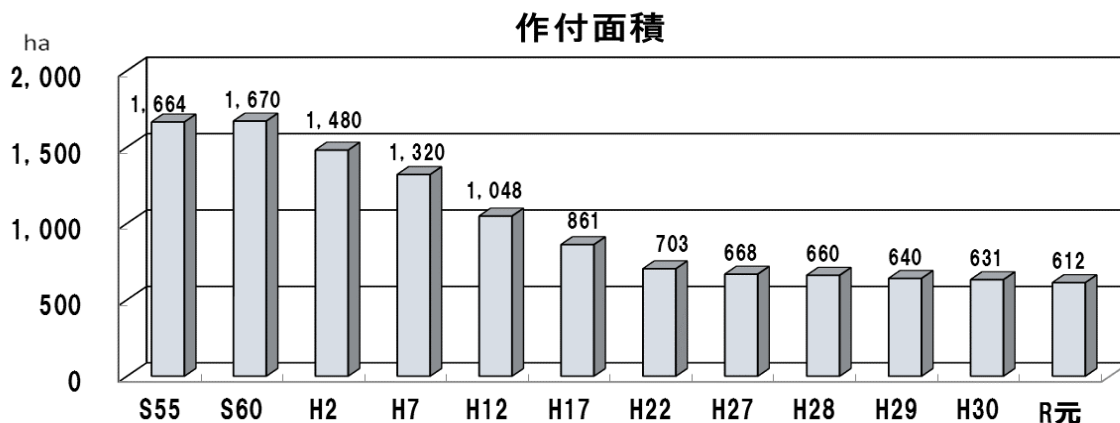
作物名/年度	H5	H10	H15	H20	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	
水稲	1,478	1,130	900	717	688	686	668	660	640	631	612	
〔加工米〕	[195]	[76.0]	[0.5]	0	0	0	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	
麦類	小麦	963	1,177	1,677	1,824	1,984	2,112	2,086	2,050	2,023	2,049	2,069
	大麦	369	280	281	222	188	166	181	172	193	200	184
	計	1,332	1,457	1,957	2,046	2,172	2,279	2,267	2,222	2,216	2,250	2,253
豆類	大豆	53	59	86	49	55	63	90	106	103	118	139
	小豆	270	219	153	71	84	89	75	47	40	58	57
	えんどう	76	54	62	42	28	28	26	25	27	20	17
	菜豆	100	68	24	21	18	21	27	19	21	16	14
	計	498	401	325	183	185	201	219	196	191	210	227
そば・その他雑穀	1	5	18	30	152	142	138	132	134	145	162	
てん菜	698	683	722	703	616	578	568	558	504	504	496	
野菜	馬鈴しょ	430	317	204	212	210	206	186	173	173	178	169
	スイカ	159	166	135	148	130	132	139	134	131	125	116
	メロン	130	166	170	163	179	175	175	172	173	173	171
	かぼちゃ	326	293	311	363	273	241	232	220	241	228	227
	玉ねぎ	1,710	1,707	1,237	1,436	1,492	1,503	1,532	1,541	1,534	1,538	1,516
	ゆり根	38	41	28	18	9	7	6	5	4	3	3
	にんじん	982	822	621	296	209	192	194	199	210	202	198
	アスパラガス	141	61	53	50	53	50	47	46	42	44	46
	スイートコーン	460	389	349	459	416	421	374	349	337	321	310
	ミニトマト	-	-	3	13	19	20	21	19	20	23	23
	その他野菜	196	188	134	128	119	120	106	111	94	97	75
	計	4,574	4,150	3,240	3,274	3,089	3,046	2,990	2,950	2,939	2,909	2,854
薬草・花卉	4	11	9	6	4	5	3	4	3	3	3	
飼料作物	1,035	1,322	1,689	1,796	1,960	2,009	2,066	2,094	2,242	2,092	2,204	
果樹	52	31	37	39	36	33	32	31	33	36	35	
地力増進	162	251	482	398	321	275	308	315	322	274	254	
その他	312	301	40	35	51	28	34	31	33	30	31	
調整水田			0	1	0	0	0	0	0	0	0	
	17	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
作付面積総合計	10,146	9,821	9,464	9,256	9,276	9,284	9,295	9,194	9,258	9,086	9,131	
	2,441	2,488	2,754	2,418	2,886	2,788	2,665	2,659	2,669	2,802	2,833	

資料：JAふらの

4 農畜産物の生産状況

1. 水稲

富良野市の水稲作付面積は昭和45年（1970年）からの生産調整によって大きく減少し、平成22年度からは微減傾向となり令和元年度は612haとなっています。また、平成30年度から米のルールが改正となり、国による調整が行われず需要に応じた生産をすることとなったため、今後の作付動向が注目されます。



2. 畑作

資料：JAふらの

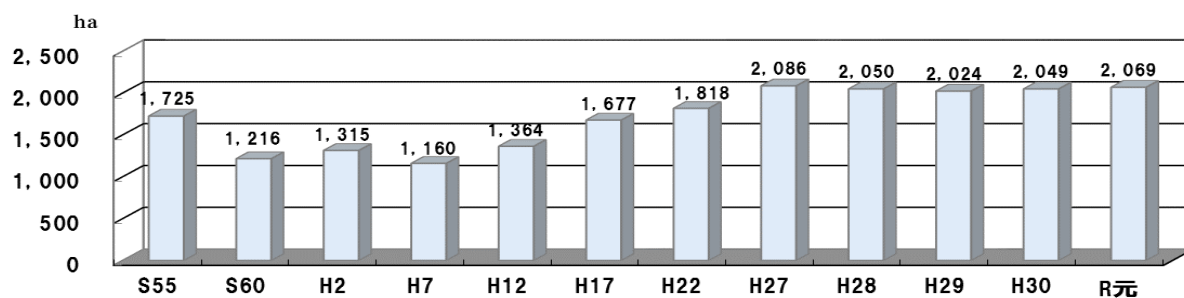
令和元年度の作付面積は、麦類では2253ha、大豆は139ha、てん菜は496ha、馬鈴しょは169haとなっています。

【小麦・大麦】

小麦・大麦の作付面積は横ばいで推移しています。令和元年度は、小麦は秋小麦1,743ha、春小麦326haで合計2,069ha、大麦は184haとなっています。

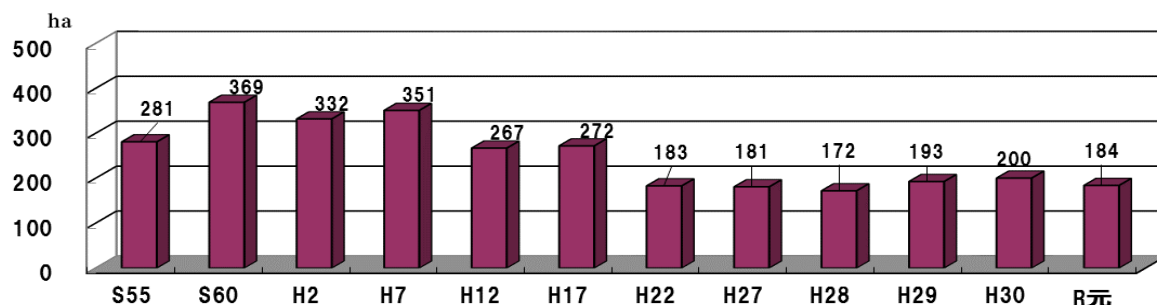
生産に当たっては、合理的な輪作体系の確立、基本技術の励行や効果的な防除・施肥等の技術普及などによって、良質小麦の安定生産を確立することが必要となっています。

小麦の作付面積の推移



資料：JAふらの

大麦の作付面積の推移



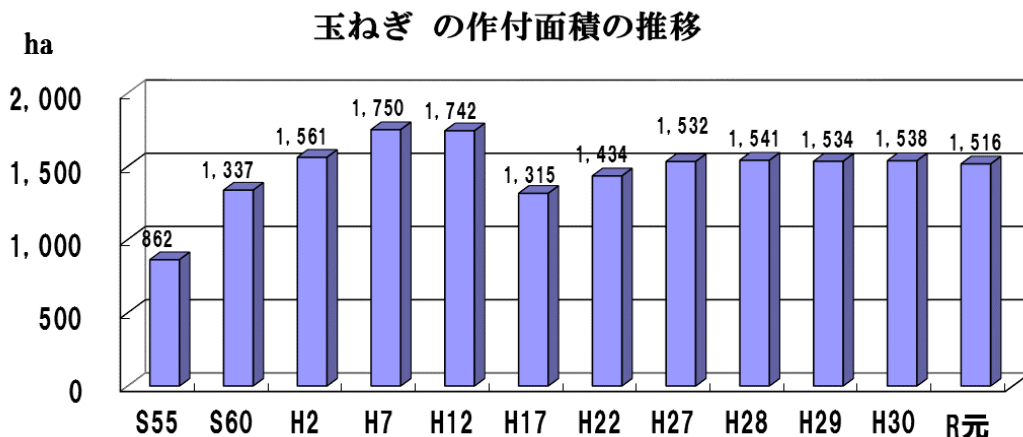
資料：JAふらの

3. 野菜

令和元年度の野菜作付面積は2,854haとなっており、主要農作物作付面積の約31%を占めています。また、本市は比較的気象条件に恵まれていることから、道内でも有数の野菜の生産地域となっています。

【玉ねぎ】

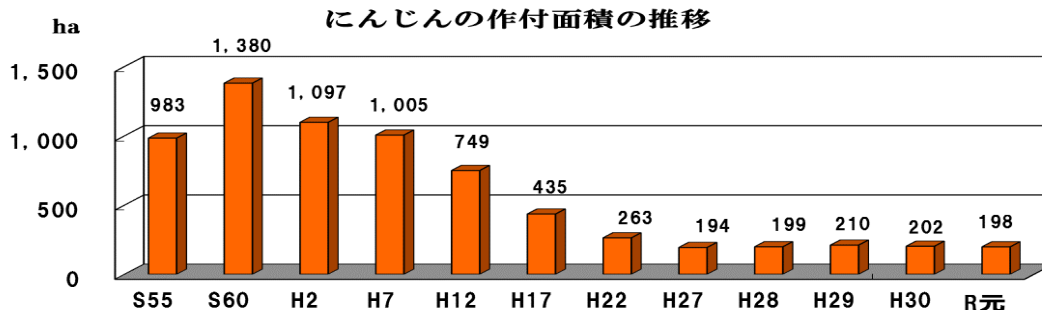
玉ねぎは、昭和40年代から全市的に栽培が拡がり、今日では富良野を代表する農産物のひとつとなっています。近年では、エチレン貯蔵庫の整備などにより長期貯蔵が可能になり年間を通して安定した出荷体制となっています。



資料：JA ふらの

【にんじん】

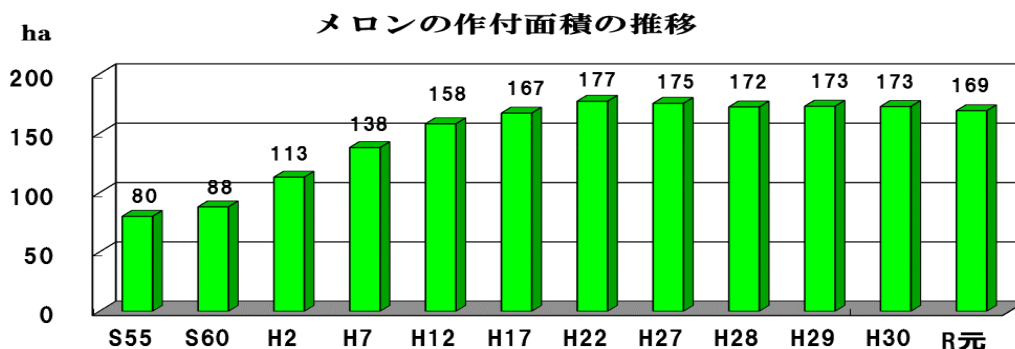
にんじんは、昭和60年度の1,380haをピークに減少傾向にありましたが、令和元年度の作付面積は198haと近年は横ばいになっています。



資料：JA ふらの

【メロン】

メロンは昭和45年頃から本格的に取り組み、令和元年度の作付面積は169haとなっています。内陸性気候の特性である昼夜の寒暖の差を活かし、高い糖度と品質を誇っており、平成30年9月より、ふらのメロンとして広域の統一ブランドとして出荷しています。

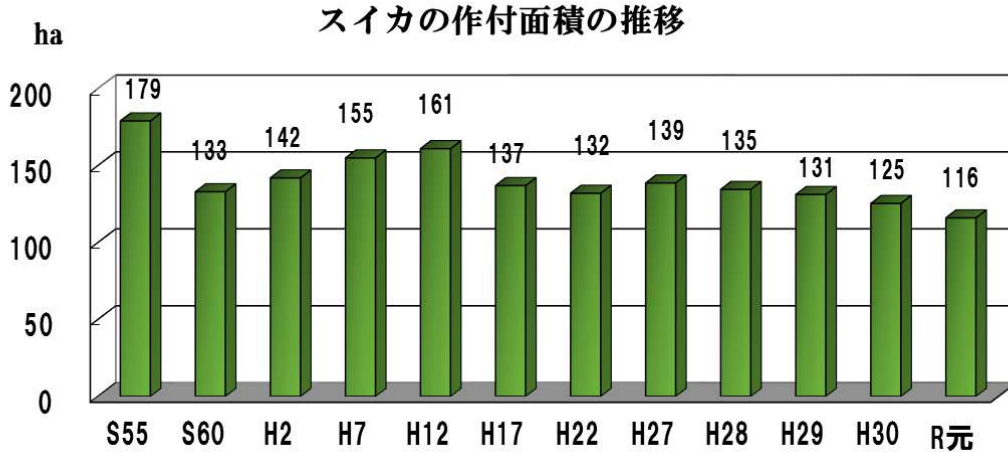


資料：JA ふらの

【スイカ】

昭和30年代後半、御料地区において果樹団地造成の気運が高まり、りんご・なしの間作としてスイカを栽培し研究したところ、それが他作物に比べ優れていたことから、更に試作・研究を重ね、本格的作付けがはじまりました。

恵まれた地形・地質と気象条件を活かすとともに、栽培技術の改善や栽培方法の研究を重ね、令和元年度の作付面積は116haとなっています。



資料：JA ぶらの

【ぶどう】

石れき傾斜地等低生産地の所得増大を図るとともに、未利用地の高度利用を目指すためワイン原料用ぶどうの栽培を推進し、現在では全道を代表するワイン産地が形成されています。富良野地方の気候風土に適した専用品種であるセイベル種を主体に、安定した生産により優れたワインの品質が確保され、現在加工用ぶどうが32haの作付がされています。

【スイートコーン】

スイートコーンの令和元年度作付面積は310haとなっています。主に生食用が多く、朝採り収穫の徹底と予冷施設の利用により、出荷の平準化を図っています。

【ミニトマト】

令和元年度の作付面積が23haとなっています。ミニトマトの導入の歴史は新しく、基本的栽培技術の徹底と労働力・経営形態に即した技術の導入などにより、長期安定生産を進めています。

【かぼちゃ】

令和元年度の作付面積は227haとなっており、早出し出荷や加工対応など高品質生産に努めています。

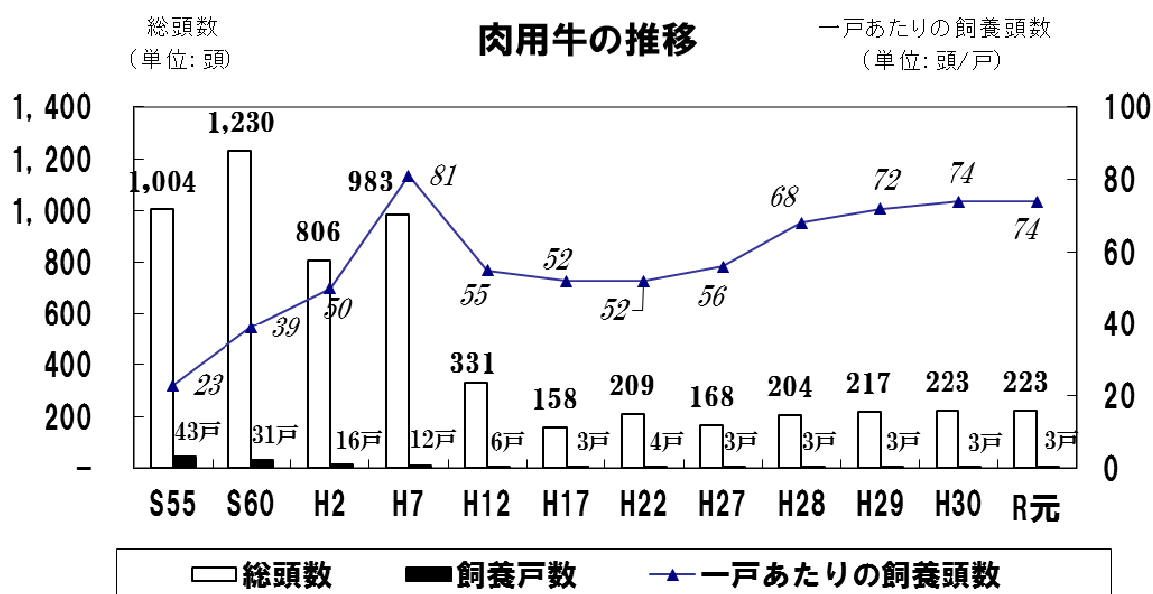
【軟白長ねぎ・アスパラガス（グリーン・ホワイト）】

土づくりを基本に栽培技術の徹底、安定収穫の確保や品質の向上などに努め、特色ある野菜産地づくりを進めています。軟白長ねぎは9ha、アスパラガスは46haとなっています。

4. 畜産

【肉用牛】

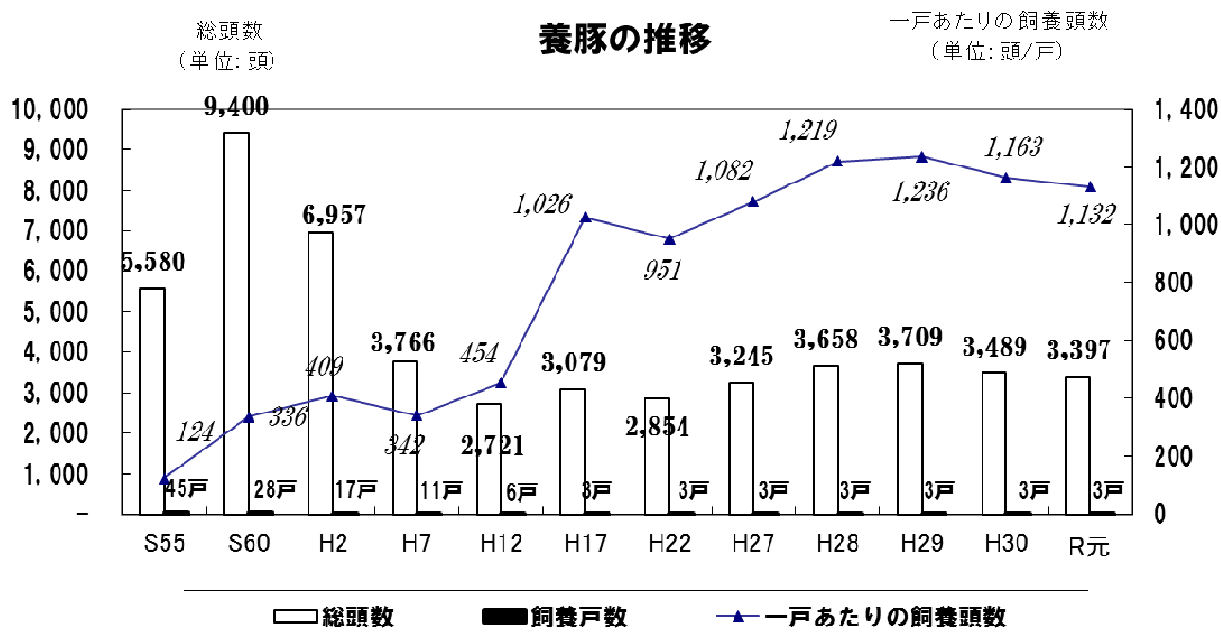
令和元年度の飼養戸数は3戸で飼養頭数は223頭と昨年度と同じ頭数となっています。JAふらのの沿線市町村の飼養者と連携し、『肉牛改良部会』の組織化や飼料や飼育方法にこだわった『ふらの大地和牛』の生産など積極的に優良子牛や肥育牛の生産販売を進めています。



資料：市農林課

【養豚】

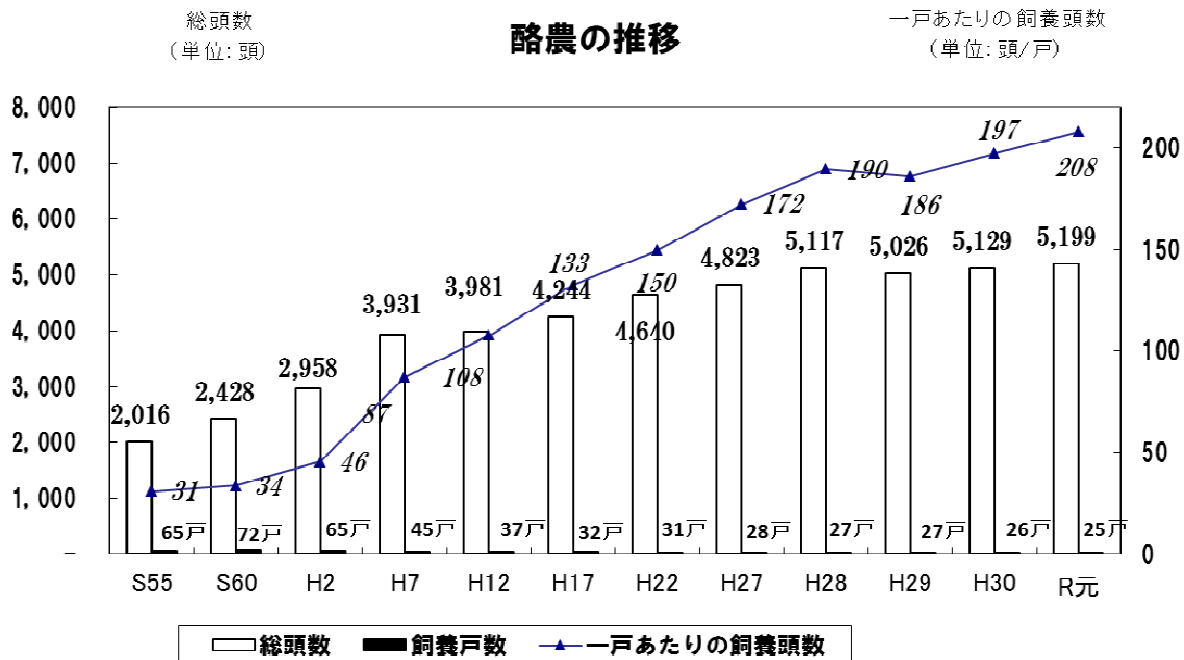
令和元年度の飼養戸数は3戸、飼養頭数は3,397頭と平成25年あたりから横ばいとなっています。近年、豚熱が26年ぶりに日本で発生し、発生防止のため、衛生管理基準の厳守など安心安全な取り組みが求められています。



資料：市農林課

【酪農】

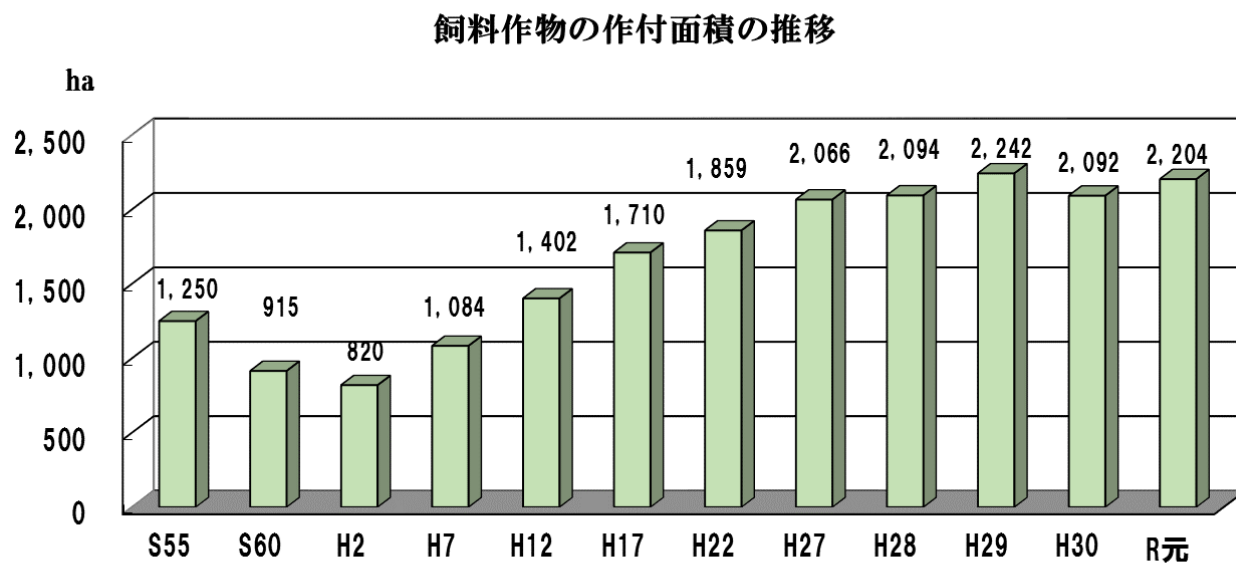
令和元年度は25戸で昨年に比べ減しており、飼養頭数は5,199頭と近年は横ばいですが、1戸当たりの飼養頭数は約208頭と増加し拡大傾向が継続しています。生乳生産量は約30,059tと経産牛1頭当たりの乳量の増加により堅調に推移しており、酪農家や関係機関の経営改善の努力により全道トップクラスの水準であり、少数ながら安定的な生産と堅実な経営努力により富良野農業の重要な位置を占めています。



資料：市農林課

【飼料作物】

令和元年度の栽培面積は、約2,204haとなっており、近年は横ばいで推移しており、農地の確保が容易ではなく、機械施設の整備、労働力確保、耕種農家との連携等が課題となっています。



資料：市農林課

5 富良野市の主な農業振興施策

1. 富良野市市民農園

市民が家族ぐるみで農産物を生産し、収穫する喜びを体験することで農業に対する理解を深めてもらうために、平成2年から市民農園を開設しています。平成15年から無農薬区画を、平成17年からは3年区画を開設しています。

《貸付料金及び令和元年度利用実績》

面積の種類	貸付料金 (一区画当)	令和元年度 利用実績(区画)	
		一般	無農薬
100㎡	3,500円	7	0
42㎡	2,100円	10	1
100㎡ (3年)	3,500円	35	11
42㎡ (3年)	2,100円	8	1
計		73	

所在地：富良野市字東鳥沼1
(鳥沼公園の隣)

開園期間：4月下旬から10月下旬

対象：富良野市民

農園面積：12,349㎡



※貸付料金には以下の内容が含まれています。

- ・耕起
- ・整地
- ・水利施設等

2. 農業体験者滞在施設

この施設は滞在型農業体験を通じて農業への理解を深め、その中から担い手の育成、農業者と都市生活者との交流を図ることを目的に富良野市が設置し、ふらの農業協同組合が管理運営を行っています。

○募集期間……2月上旬～6月下旬頃

○体験期間……4月中旬～10月下旬

○体験実習先…市内の各種野菜生産者

○施設……………全個室で最大120名収容可能【風呂・食事共同】



農業体験者滞在施設

3. 農業担い手育成センター（平成26年12月設置）

平成26年10月1日、農業担い手の育成及び確保を目的とし、富良野市をはじめ農業関係機関・団体により富良野市農業担い手育成協議会が設立されました。

そして、富良野市農業担い手育成協議会の活動拠点として、農業担い手の育成及び確保に資する各種事業を実施する施設として、平成26年12月1日に富良野市農業担い手育成センターが設置されました。（旧産業研修センター）

協議会は、平成28年2月2日一般財団法人富良野市農業担い手育成機構となり、農業への新規参入を希望する研修生、就農後5年以内の新規就農者等を主な対象とし、研修会の実施や相談業務等を実施しています。

平成30年4月に修了生第1号が誕生し、平成31年4月にも2組が就農しています。

【施設】

管理棟

トレーニング農場・・・40a

就農支援住宅・・・2棟

宿泊棟・・・・・・・・最大36名収容可能

【内訳】16部屋×2人（風呂・食事共同）

4部屋×1人（風呂共同・炊事施設有り）

4. 北海道大学富良野サテライト

本市農業の発展のため、平成17年12月9日並びに平成24年9月3日に北海道大学と連携協定を締結し、同農学部と連携しながら、農業課題の解決や研究を行ってきました。平成21年4月から旧産業研修センターを北海道大学富良野サテライトとして利用し、農業・農村関連の調査・研究を行っています。

また、酪農学園大学、帯広畜産大学とも連携を進め、「食の安全・安心」を目指しネットワークの形成を図っています。

北大サテライトの目的

- ① 食の安全・安心に関する社会人（学生）向け教育拠点・情報発信
- ② 地元の要請に対応した調査・研究
- ③ 各大学の教員・ゼミによる調査・実習の仲介



担い手育成センター管理棟兼北海道大学富良野サテライト



担い手育成センター宿泊棟

5. 農業セミナー

「求められる産地」「ふらのブランドのイメージアップ」を図るとともに、働き手に「富良野の農場で働きたい」と思ってもらえる産地を目指すためにふらの未来農業EXPOを開催。「富良野農業3つのカイゼン」①生産現場のカイゼン、②雇用環境のカイゼン、③品質管理のカイゼンをコンセプトに、「ふらの未来農業フォーラム」や「ふらの未来農業ゼミナール」を実施しました。

【ふらの未来農業EXPO2019 開催結果一覧】

セミナー名	開催日時	参加者数
ふらの未来農業フォーラム 農業の働き方改革 「農業で働きたい人を増やすためにできること」 「明日からできる！農業経営を大きく変える小さな改善」	令和元年 11 月 13 日	39 名
ふらの未来農業ゼミナール 生産現場の改善ゼミ 「上川地方の気候変動の状況」 「農家自らできる！ハウス強靱化技術講習会」 「トヨタ方式のカイゼン手法を農業にいかす」	令和元年 11 月 14 日	52 名
ふらの未来農業ゼミナール 雇用環境の改善ゼミ 「多様な人材がいきいき働く職場づくり」 「農業の働き方改革実践ワークショップ」 「農業における労務管理について」	令和元年 11 月 15 日	18 名
ふらの未来農業ゼミナール 農業情勢ゼミ 「メガ協定と北海道農業の未来」	令和元年 11 月 18 日	34 名
ふらの未来農業ゼミナール ～品質管理の改善ゼミ～ 「HACCP 導入セミナー」	令和元年 12 月 4 日	29 名
ふらの未来農業ゼミナール 鳥獣害対策ゼミ 「野生動物による農作物被害を減少させる方法」	令和 2 年 2 月 7 日	35 名



6 農業農村整備事業

農地で必要な農業用水を確保するための水路整備、営農条件を改善するための水田、畑の整備、農産物などを運搬するための農業用道路の整備等農村の環境整備を行っています。

令和元年度 道営事業実施一覧表

(単位：円)

事業名	地区名	事業費	市負担金	事業内容
農地整備事業 (通作条件整備事業)	大沼	50,892,671	11,450,850	農道整備
農地整備事業 (経営体育成型)	扇山南 1期	116,428,925	783,773	区画整理、暗渠排水 排水路整備
農地整備事業 (経営体育成型)	扇山南 2期	64,169,706	656,250	区画整理、排水路整備
農地整備事業 (経営体育成型)	扇山北	192,248,982	4,124,748	区画整理、暗渠排水 排水路整備
水利施設等 保全高度化事業 (畑地帯担い手育成 型)	東山	157,324,200	0	区画整理、暗渠排水
道営草地畜産基盤整 備事業	ふらの	166,430,000	6,018,283	草地整備
合計	6地区	747,494,484	23,033,904	

7 地域資源を活かした取り組み

農業者が農業生産のかたわら、都市と農村との交流に積極的に取り組んでいる直売所を一部ご紹介いたします。

1. 農産物販売・ネット販売・農業体験・加工体験等

名 称	住所(富良野市)	電話(0167)	主な品目
ファーム奥平	南扇山1	23-5629	アスパラ・スイートコーン・メロン・玉ねぎ(農業体験)
佐藤農園	中五区7-7	22-3464	メロン
井上農産	下五区	22-0325	そば乾麺・お茶・はちみつ(ネット販売)
藤井牧場直売所	八幡丘	29-2988	チーズ・牛乳・ソフトクリーム
内芝農園メロン直売所	東町6-11	23-1582	メロン・西瓜・スイートコーン
阿部農園	西扇山2	22-3773	アスパラ
加納農園	山部東12線8番地	42-2687	メロン・アスパラ・とうもろこし・南瓜
(有)吉田農園	山部東13線12番地	42-3187	メロン・スイートコーン・西瓜・南瓜
ふらのジャム園・共済農場	東麓郷3	29-2233	ジャム等加工品・ジャガイモ・南瓜・スイートコーン・ミニトマト
榎本農園	山部西24線9番地	42-3424	メロン・ミニトマト
いとうファーム	老節布3474番地6	27-2857	メロン・スイートコーン・玉ねぎ・南瓜(農業体験)
嶋田農園	山部東16線11	42-2436	メロン・スイカ・スイートコーン・南瓜(地方発送可)
山崎メロン園	山部東17線10番地	42-2614	メロン・西瓜・スイートコーン・南瓜
中西農園	山部東14線14番地	42-3516	メロン・スイカ・とうもろこし・南瓜
杉村農園	山部西15線8番地	42-3224	米・アスパラ
大島農園	山部東14線12番地	42-3513	メロン・西瓜・スイートコーン
中田農園	山部東15線18番地	42-3502	メロン・西瓜、スイートコーン・南瓜
山崎農園	山部東16線15番地	42-3523	メロン・西瓜、スイートコーン・南瓜
中山農園	山部西24線11番地	42-3348	メロン
株式会社フラノプレゼンツ	山部西18線26番地	42-3313	メロン
山田農園	西達布しらはぎ	28-2376	メロン・とうもろこし・アスパラ・ジャガイモ・南瓜
ふらのワインハウス	清水山	23-4155	ふらのワイン
ふらのワイン工場	清水山	22-3242	ふらのワイン
ふらのアイスマルク工房	中五区	23-1156	ミルク加工品
富良野チーズ工房	中五区	23-1156	チーズ・牛乳他菓子類・飲料
ファーマーズマーケット オガール(JA ふらの直売所)	幸町(マルシェ内)	22-3939	野菜・果実・加工品等
ふらの樹海野菜工房「しずく」	東山共栄	09025217722	野菜直売
NPO 法人 山部まちおこしネットワーク	山部南町2番10号	42-3900	アスパラ・メロン・スイートコーン(ネット販売) 教育旅行受入・個人向け収穫体験
ふらのジャム園・共済農場	東麓郷3	29-2233	ジャム作り体験
ふらの手づくり体験工房	中五区	23-1156	チーズ等加工体験
富良野チーズ工房	中五区	23-1156	バター・アイス・チーズ・パン作り体験

8 富良野市農業関連施設

1. 富良野市ぶどう果樹研究所

(1) ワイン工場

富良野市は、昭和47年(1972)に石れき傾斜地の所得増大・農家経営の安定を図るために、地域に適した原料用ぶどうの栽培試験や醸造研究などを推進する目的で、ぶどう果樹研究所を設置しました。そして、着実な研究の成果を踏まえて、昭和51年(1976)に富良野盆地を一望する自然景観に恵まれた清水山にレンガ造りのワイン工場を建設し、ワイン醸造を本格的に始め、昭和53年(1978)からふらのワイン【赤】【白】の市販を開始しました。翌年には熟成庫を増設、さらにその翌年には待望の永久醸造免許が交付され、本格的な生産体制が確立されました。平成11年には樽熟成庫を増築するなど益々の発展を遂げています。

主な商品は、フランス系高級品種をブレンドした「シャトーふらの【赤】」及び上品な香味の「シャトーふらの【白】」、香り豊かな「ミュラー」、「バレルふらの赤・白」、高貴な香りの品種を使用した「新酒富良野」、さらに平成16年から富良野の厳寒な気候を利用した国内初本格「アイスワイン」などを開発し市場に送り出しています。品質向上や消費者ニーズに応えるため、日々新製品の開発・醸造及び栽培研究に努力しています。この工場内では、ワインの製造工程や貯蔵庫の見学、ワインの試飲などができます。毎年9月のワインぶどう祭りは、平成19年より会場をまちなかに移動、ワインやぶどう果汁のほか、ワインをテーマとしたオリジナルメニューを楽しめるとあって、地元をはじめ観光客にも好評です。

「ワインといえば富良野、富良野といえばワインのまち」といわれるほど、ふらのワインは特色のある特産品として広く知られており、富良野のイメージを高め、観光・商工業・農業振興・地域経済の活性化に貢献しています。また、全国各地のワイナリーが出品する日本ワインコンクールにおいても各種ワインが入賞し、Japan Wine Competition2017においてはふらのワイン バレルふらの白が銀・コストパフォーマンス賞を受賞するなど評価を受けています。

《Tel/22-3242 営業時間/9:00~17:00(通年)》



ぶどう果汁工場



ワイン工場

(2) ぶどう果汁工場

「ワインの飲めない方に搾ったままのぶどうジュースを」との声を受けて、昭和62年(1987)より研究をはじめ、平成元年(1989)9月にふるさと創生資金の一部を投入して西学田二区に建設し、同年12月より、「ストレートぶどう果汁100%」のジュースを道内でも初めて本格的に製造・販売を開始しました。富良野の気候に適したバッファロー【赤】とポートランド【白】を果汁原料にワイン用のセイベル種をブレンドして香り高く、ストレート、炭酸割り、シャーベットにするなど美味しいバリエーションが楽しめます。

ぶどう園に囲まれた工場では、果汁の試飲や瓶詰め工程の見学が楽しめます。また、平成13年からは「ぶどうヶ丘インフォメーションセンター」として富良野市内の観光情報発信拠点にもなっています。

《Tel/23-3388(ふらの観光協会) 営業時間/9:00~16:00(6月1日~10月上旬のみ営業)》

(3) 富良野市種苗センター

昭和 61 年（1986）に優良なワイン原料用ぶどうの安定生産のためにバイオテクノロジー研究施設「富良野市種苗センター」が建設されました。「良いワインは良いぶどうから」という言葉をもとに、富良野に適したぶどう品種の栽培試験、試験農場やぶどう畑の管理などをおこなっています。

《年表》

昭和 47 年	富良野市ぶどう果樹研究所設置	16 年	甘口赤ワイン“テル”発売
50 年	富良野スキー国体で試作ワイン提供		甘口ロゼワイン“ソレイユ”発売
51 年	ワイン工場完成		長期熟成タイプヘリニューアル ツバイゲルトレーベ（赤）発売
53 年	ふらのワイン（赤）（白）発売	17 年	パレルふらの（赤）発売
54 年	ふらのワインロゼ市民還元開始		日本初自然凍結ぶどうによる アイスワイン F（白）発売
57 年	シャトーふらの（赤）発売		
59 年	ミュラー発売	18 年	工場限定（赤）発売
61 年	種苗センター建設		バックカス 2006 発売
62 年	シャトーふらの（白）発売 第 1 回ふらのワインぶどう祭り開催		
平成元年	果汁工場完成	19 年	アイスワイン（赤）発売
2 年	ツバイゲルトレーベ発売		
6 年	ミュスカ（甘口）発売		
7 年	ワイン工場増築	23 年	ツバイゲルトレーベ・スペシャルセレ クション（赤）発売
9 年	91 ヴィンテージ（赤）		北の国から放映 30 周年記念ラベルワ イン（赤・白）発売
	プリエール（赤）（白）発売		
10 年	94 ヴィンテージ（赤）	24 年	創立 40 周年記念ワイン（白）発売
	ノール（白）発売		ヌーベルアージュ（赤）発売
11 年	ノール（赤）、樽熟 96（赤）、 オピ 7（白）	27 年	スパークリングワイン ベルル・ド・バックカス 2013 800 本限定発売
	→現在の新酒富良野発売 樽熟成庫完成		ピノノワール発売 ピノ・ツバイ発売
12 年	樽熟 97（赤）、 ケルナー（白）発売	28 年	レイトハーヴェスト「遅摘み」発売
	第 2 駐車場整備 新世紀記念ワイン販売		
13 年	バックカス（白）、甞の晩酌（赤）	29 年	ヌーベルアージュ（赤）再発売
	樽熟 98（赤）発売		
14 年	樽熟 99（赤）発売	31 年	新ふらのワイン発売
	パレルふらの（白）発売		価格改定
15 年	甘口白ワイン“シェル”発売		令和元年
	樽熟 2002（赤） 果汁紅葡萄発売	スパークリングワイン ベルル・ブランシュ 2017 発売 800 本限定	

2. ワインハウス（自然休養村管理センター）

富良野市街を一望できる清水山の頂に、ふらのワイン、牛肉、農作物、民芸品など富良野市特産品の宣伝と観光ルートの拠点として、昭和54年（1979）にオープンしました。広大な田園風景、十勝岳連峰のパノラマを眺めながら洋食を楽しめる地産地消レストランです。ふらのワインはもちろん、ふらの和牛、ふらのチーズなど地元素材をふんだんに使った料理はどれもおすすめです。

また、夏は心地よい風に吹かれながらの野外ガーデンでのバーベキューも格別です。

ワインハウスの敷地内にはラベンダー畑があり、7月になれば丘一面に淡い紫色のじゅうたんを敷きつめたようにラベンダーの花が咲きます。

《Tel／23-4155 営業時間／11：00～21：00 定休日なし（年末年始を除く）》



ワインハウス（自然休養村管理センター）



3. チーズ工房・アイスマルク工房・ピッツァ工房・手づくり体験工房

【チーズ工房・アイスマルク工房・ピッツァ工房】

牛乳の消費拡大、食文化の創造、地場産品創出を目的として、昭和58年（1983）にチーズ工場を、平成4年（1992）には新農村地域定住促進対策事業で富良野チーズ工房を建設し、運営を行っています。

この施設では年間約350tの生乳を処理しており、低温殺菌ノンホモ牛乳として人気の「ふらの牛乳」、新鮮で自然の風味を大切にしたオリジナルの「ふらのチーズ」、「ふらのバター」を製造しています。

ふらのチーズは、クリーミーな味わいで日本初のワインを練り込んだチーズ「ワインチェダー」、マイルドな風味で白く柔らかな口当たりの「ホワイト」、白カビタイプのクリーミーなソフトチーズ「メゾン・ドゥ・ピエール」、カマンベールタイプでイカスミ入りの白カビ軟質チーズである「セピア」、玉葱を加えたゴーダタイプの「たまねぎ」、独特な弾力と癖のない味わいの「モッツァレラ」の6種類があります。工房内では製造工程の見学やチーズ試食、また、乳しぼりの擬似体験などができ、乳製品の文化コーナー・直売コーナーなどを設けています。

アイスマルク工房では、富良野産の素材を活かしてジェラート（**ホワイト、カボチャ、とうきび、メロン他**）や**できたて**チーズソフトクリームを製造・販売しており、こだわりの低カロリーでヘルシー、体にもやさしい商品として好評を受けています。

平成19年（2007）には、ふらのピッツァ工房が完成。イタリア・ナポリで研修を重ね、地元の小麦や素材にこだわったオリジナルピッツァを提供しています。

《Tel／23-1156 営業時間／チーズ・アイスマルク工房 9：00～17：00（4月～10月）9：00～16：00（11月～3月）／ピッツァ工房 10：30～16：00 年中無休（12月31日～1月3日は閉館）》

【手づくり体験工房】

富良野産の素材を使って、バター、アイスクリーム、パン、チーズ等の手作り体験をしてもらうため、平成10年（1998）にチーズ工房に隣接して手づくり体験工房を建設しました。

新鮮なふらの牛乳から、バターやアイスクリームのほかオリジナルチーズなどが手作りできますし、地場産小麦で、オリジナルのパンづくりに挑戦することもできます。

また、市民や生産者が食材を持ち寄り、自ら作って食べてもらうことで「ものづくりへのこだわり」や富良野の新しい農村文化の創造の役割も担っています。

《Tel／23-1156 見学・体験時間／9：00～17：00（11～3月は16：00まで）（年中無休）》



チーズ工房



手づくり体験工房

4. ハイランドふらの（農村環境改善センター）

昭和60年（1985）、冷泉が湧き出している島ノ下地区に地場産業の振興・農業者の健康増進等を目的とし、研修・スポーツ・レクリエーション活動ができる複合施設として、農村環境改善センター（ハイランドふらの）が建設されました。

宿泊定員は81名で、研修室や多目的ホール、レストラン、森に囲まれたバーベキューハウスが整備されているほか、周囲には富良野市最大級の面積を誇るラベンダー畑、森林浴コースなどがあり、憩いの場として人気があります。

冷鉱泉（弱アルカリ性低張性冷鉱泉）で無色透明・無味無臭、pH8.1であり、また、平成14年（2002）には、露天風呂やサウナなど浴場の全面改修を行いました。その他、バリアフリーの客室やリハビリ浴室などを新設し、高齢者や体の不自由な方でも安心して宿泊していただける施設になっています。

《Tel／22-5700 日帰り入浴／6：00～23：00（入浴受付 22：30）

レストラン／ランチ11：00～14：00 デイナー17：00～20：30（ラストオーダー20：00）》



レストラン



露天風呂

5. 山部自然公園「太陽の里」（ふれあいの家）

山部自然公園「太陽の里」は富良野駅から約16km（車で20分）、山部駅から約3km（車で5分・徒歩40分）の位置にあり、総面積15万km²の広大な敷地を有する富良野芦別道立自然公園内にあります。公園内には、宿泊施設「ふれあいの家」、アスレチックコース・パークゴルフ場・キャンプ場・野外炊事施設・テニスコート・遊歩道・野外ステージ等が完備されており、それぞれの季節にはツツジ・ラベンダー・カスミソウ・ジャーマンアイリスなどが訪れた方を楽しませています。

《Tel／42-3445 レストランの営業時間／11:00～21:00（ラストオーダー 20:00）

（4月29日～10月31日）》



ふれあいの家

富良野農業の概要

令和2年6月発行

発行 富良野市役所
編集 富良野市経済部農林課

北海道富良野市弥生町1番1号
TEL 0167-39-2309